

淨味 淨元はモミの豎目に書す 寒雉 桐の豎目に書す 道也 モミの横目に書す

道爺一代は 桐の横目 何れもサン蓋なり

〔甲子夜話十一〕松平不昧ハ、雲州雲州侯出羽守治茶ニ高名ナリシ人也、或時芝邊ノ茶店ニ憩レケルト郷隱退シテノ名茶ニ高名ナリシ人也、或時芝邊ノ茶店ニ憩レケルトキ、其釜ヲ見ラレ、コレゾ眞ノ蘆屋釜ト曰レケル、店主大ニ喜ビ、他日ソノ釜ノ箱ヲ造リ、不昧ノ邸ニ持來リ、蘆屋釜ト銘ヲ書シ賜ハラシコトヲ願請ス、不昧拒マズシテ留置コト數日ナリ、店主復來テコレヲ促ス、不昧曰、我書セント思フコト屢ナレドモ、心ス、マズシテ未ダ果サズ、店主又來レドモ未ダ果サズトテ、遂ニ銘書ヲ爲ザリシトナリ、又カノ茶店ニハ、不昧ノ蘆屋ト鑒定セラレシ釜ハ何ナルモノゾトテ、日々賢愚老少入來ルモノ少カラズ、其店コレガ爲ニ多ク錢ヲ得タリト云フ、實ハ不昧ノ戲ニテ、眞ノ蘆屋ナラヌヲサイハレタルナリ、箱書付シテハ失鑒ニナルユヘ、コレハ爲ザリシナリ、其茶店コレガ爲ニ利ヲ得ルニ至ルモ、此侯ノ高名ナルコト推シテ知ルベシ、今ハ不昧流トテ、世ニ一流ノ茶道立シホドニナリヌ、

銀

〔千家茶事不白齋聞書〕銀の事

一ひる口、切口、ひるの如シ、唐金大小有り、み、す、み、すの如シ、唐金大小、諸手左右違目同じ、老人之遺物也、さ、げ、角豆の如シ、丸み有り、鐵大小、宏やうはり、丸きものに、別に二ツの銀有、鐵也、眞鍮の銀、大小有り、平くわん、平み有り、鐵大小、美濃紙にて卷、鳴りを留る也、他流もの、四方釜の銀、眞鍮平銀仕付ケ、名物のくわん、奈良鍛冶の作也、利休所持、宗旦の書付有り、今坂本周齋に有之、

〔茶道筌蹄三〕釜添品目

銀 平銀は四方釜 丸銀ハ、雲龍、鶴首、東陽坊、但し大小とも常の銀むかしは左、眞鍮は眞の銀也、○中略鑿取手 百佗、千本松などの銀をいふ、